

平成 28 年度 (2016 年度)

佼成学園中学校入学試験問題

国 語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いたり裏返したりしてはいけません。
2. 解答用紙は 1 枚です。
試験が始まったらすぐに解答用紙に受験番号を記入してください。
氏名は記入してはいけません。
3. 問題は 14 ページまであります。
試験開始後、ページ数がそろっていることを確認してください。
4. ページがぬけていたり印刷が見にくい場合には、手をあげて担当者に知らせてください。
5. 解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入してください。

【一】 次の——線部について、漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直さない。

- ① 渋谷を經由して新宿へ行く。
- ② 食器を無造作に置く。
- ③ 朝顔の発芽を観察する。
- ④ 子ども達に愛情を注ぐ。
- ⑤ 快い音楽が流れる。
- ⑥ 地元へのコウセキが評価される。
- ⑦ 利益をキントウに配分する。
- ⑧ タイボウの新作が発表される。
- ⑨ 人々から非難をアびる。
- ⑩ 都会に新居をカマえる。

【二】 次の問いに答えなさい。

問一 次の1～4のそれぞれが意味の通る表現になるように、☐に体の一部を表す漢字一字を入れなさい。

- 1 ☐
を配る
に余る
をぬすむ
- 2 ☐
を長くする
が回らない
をひねる
- 3 ☐
が痛む
をなで下ろす
がさわぐ
- 4 ☐
が黒い
を割る
にすえかねる

問二 次の1～3の文の——線部と同じ種類・用法のものを後の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 少女たちが笑いながら通り過ぎていく。
- ア 昔ながらの家が建ち並ぶ。
- イ 知っていながら何も言わない。
- ウ 音楽を聞きながら勉強する。
- エ 会社で働きながら学校に通う。

2 予報では今年の夏は暑くなるらしい。

- ア 高校生らしい服装を心がける。
- イ 列車は事故でおくれるらしい。
- ウ おそらくあの男性は正直な人らしい。
- エ わざとらしい態度が目に付く。

3 寒いから上着を着る。

- ア 学校から帰って来る。
- イ あなたから話始めて下さい。
- ウ つまらないからやめた方がいい。
- エ 窓から外をながめる。

問三 次の1～3の——線部の言葉に注意して ☐ に当てはまる言葉を、それぞれひらがな二字で答えなさい。

- 1 もし海外旅行をするの ☐、フランスに行きたい。
- 2 まさかこの季節に雪は降る ☐。
- 3 たとえ何が起ころう ☐、君を守る。

「私」(斎藤慈雨)は、友人の春美に誘われて小さな花屋で働いている女性である。

本文は、春美とともに葬式の祭壇を花で飾る作業を進めている場面である。

それにしても、花屋というのは不思議な稼業^{かせいよう}だなあ、とこういう時に思う。人の喜びと悲しみの両方を彩^{いろど}るのだから。それこそ、揺籃^{ゆらん}から墓場まで。イギリス労働党のスローガンと私たちのそれは一緒^{いっしょ}なのだ。ええ、精一杯働きますとも。人々の毎日を、より印象的にするためなら、手荒れなんてへっちゃら。なんて言いたいところだが、正直言ってこれからの季節はつらい。冷たいからお湯を使う訳には行かないし、開け放した店内は暖房^{だんぽう}が効かないし。手先が狂^{くる}うからヴィニールの手袋^{てぶくろ}なんてはめることは出来ないし。そんな愚痴^{ぐち}を言っていたら、栄^{さかえ}が、ハンドクリームを買ってくれた。ドラッグストアで見かけるありきたりの安物^{やすもの}だけど、じんと来た。こんなの付けたって焼け石^{あかいし}に水、と思わないでもなかったが、私は、この種の小さな思いやりに弱い。昔、母に、おこづかいを貯^ためて、やはりハンドクリームを贈^{おく}ったことがあったつけ。あれは、確か、小学校の二年生の時か。今の祖母さん方には想像もつかないだろうけど、あの頃の母親たちの手には、冬、ひびやかざれがあった。蛇口^{じやくち}をひねればお湯が出るなんていう

① して「桃の花」を買うことが、本当に親孝行になるのだろうか。強情^{きやうじやう}な子ね、と溜息^{ためいき}をついて諦^{あきら}めた先生は私の側^{そば}を離^{はな}れようとした。その時、山下くんが、皆に聞こえるように言った。

② 「くだんねえ」
先生は驚^{おどろ}いたように彼^{かれ}を見た。

「親孝行がくだらないことなの？ 山下くん」
「リボン見せびらかすためにやってるからくだんない」

私は、その日、雑貨屋に「桃の花」を買いに行った。なんだか負けを認めたような気がした。母は、さして感激するふうでもなく、ありがとう、とだけ言ってクリームを手^てに塗^ぬった。あかぎれにすり込まれるそれを見ていた私は、泣^なけて来た。母が、本当に嬉^{うれ}し気に笑^{わら}ったのは、そんな私を見た後^{あと}だった。泣^なかないの、と母は言った。ママの手は頑丈^{がんじやう}だから。

結局、最後まで、リボン付けてもらえなかったんだよなあ、と思ひ出す。私の出来た親孝行^{けんかうかう}って、あかぎれを見て泣いたことだったんだなあ。クリームを買ったことじゃない。くそう、あの先生、今の私^{わたし}だったら言い負かしてやれるんだが。ま、後の祭^{まつり}りなんだけどさ。

大人が誰かに買ってやるハンドクリームには、何の他意^{たいてい}もない。ただのちっぽけな親切だ。ちよつとばかり、あなたを心配していますよ、という意思表示。第三者にアピールしても意味を成さないもの。ああ、そうだ。私は、この店で、そんな花を売りたいのだ。それが葬儀^{そうぎ}の花であるなら、本当の意味で故人の死を悼^{いた}むものでなくてはならない。

「でもさあ、慈雨^{じうう}、死人の横で作業するのって、ぞつとしないよね」
「そお？ 生きてる実感、湧^わくじゃん」
「変わってるう。私、幽霊^{ゆうれい}ほど苦手なものないんだよね」

便利さとは無縁^{むえん}な時代。私の買えたクリームは、とても安かったけれども、ピンク色に着色^{しきしき}されていて、とても綺麗^{きれい}だった。商品名を「桃の花」という。きつかけは、学級会の時の担任の先生の言葉だった。おこづかいを、ちよつとずつ貯^{たくわ}めて、お母さんに「桃の花」を買ってあげるような子が、先生は好きです。美しく優^{やさ}しい女の先生の言葉に、皆^{みな}、どよめいた。誰もが、先生の気を引きたい、と思っていたのだ。はつきり言えば、最^{さい}願^{がん}されたいと願^{ねが}っていた。次に、先生がこう続けたので、子供たちは、さらに衝撃^{しやうげき}を受けた。先生の言うのを実行した人は知らせて下さい。名札に親孝行の印のリボンを付けてあげます。チャンス！ と誰もが感じた。出し抜^ぬくのは今だ、とほとんどの子供の顔に書いてあった。その翌日から、胸にリボンを付けた誇^{ほこ}らし気な子供たちが続々と増えて行った。その内、リボンを付けていないのは、私ともうひとりの男子の二人だけになった。先生は、皆の前で、私に言った。悲しそうな顔をしていた。

「山下くん(もうひとりの子の名前だ)は、お母さんがいないのだから仕方ないけど、斎藤さんは、どうしてお母さん思いの子になれないの？ 先生の学級の子たちには、全員、親孝行してもらいたいだよ」私が下を向いたままなので、不貞腐^{ふてくさ}れている、と先生は思ったようだった。でも、私は、ただ考えていただけだ。私には欲しいものが沢^た山^{さん}ある。いくらおこづかいがあっても足りないくらいだ。それを我慢

④ 「幽霊も春美のこと苦手だと思ふよ。だけど、心を残さないよう、私たちの世界に行っていたために、私たちの仕事がある訳でしょ。心を尽くして、送って差し上げましょ？」

春美は、意味あり気に私を見た。目で問いかけると、感心したように頷^{うなず}く。

「栄くん効果かねえ」
「何が」

「前より、ずうっと仕事に気が入って来た。顔つきも変わったしさ。ちよつとした接客トラブルにも動じなくなってるし。第一、綺麗になつたよ。」
② 風来坊然とした感じがなくなった。いいねえ、地に足着けて充実^{じゆうじつ}した愛情生活を送ってる女は。死人にやきもち焼^やかれないように気を付けなさいよ!!

そう言つて、春美は、力まかせに私の背中を叩^{たた}いた。痛いんだよ。なんだか、どんどん、あのだんなに似て来ている。そういや、上手く行ってる夫婦^{ふうふ}って、どこも、そっくりだ。

それにしても、充実した愛情生活って……そうなのか？ 充実というのとは違^{ちが}うような気がする。ただ、どんな時でも、栄は私の内にいる。普段^{ふだん}は、お利口さんにして、そこにいる彼だが、何かの拍子^{ひょうし}に、私の気を引いて囁^{ささや}くのだ。③ どうせ、いつかは、死んじやうんだぜ。そんなことを言われたら、身震^{みふる}いする人もいるだろう。投げやりな気分になる人も少なくないだろう。だけど、それは、私にとっては、甘い囁^{ささや}き。彼の唇^{くちびる}が紡^{つむ}ぐ魔法^{まほう}の言葉、なのだ。私しか知らない、彼の芸当^{あま}。

⑤ 先生、私、やっぱり、リボンいりません！ でも、こつそり「桃の花」は買いますよ、ざまあみろ。大人になると、色々な方法で、仮想仇討^{かみうち}が可能になる。そうだろう、山下くん。でも、栄くん効果だなん

て思われてしまうのは、やはり無意識^⑥の内の見せびらかし？ だって
ら栄にも慈雨ちゃん効果が現れていて欲しい。それで、イーヴン^{※5}。色
に出^いにけりは恋^{こい}の法則なのだから、春美よ、何も言わずに見守ってお
くれ。風来坊が地に足を着けたぐらいで驚いてはいけない。

(山田詠美『無銭優雅』幻冬舎より)

※1 栄……………北村栄。慈雨の恋人。予備校で国語の講師をし
ている。交際を始めて三年ほどになる。

※2 風来坊……………気まぐれな人。落ち着きのない人。

※3 どうせ、いつかは、死んじやうんだぜ

……………慈雨に出会って間もない頃から、栄がしばしば
口にしていう言葉。

※4 仇討……………仕返しをすること。かたきうち。

※5 イーヴン……………対等であること。引き分け。

問一 ――線部A「焼け石に水」、B「後の祭り」の意味として最
も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 「焼け石に水」

ア 対策や処理の仕方があまりに急であること。

イ わずかな手助けや努力では効果が上がらないこと。

ウ どんな物にもそれぞれ適した組み合わせがあること。

エ たがいに全く反対の性質を持っていること。

B 「後の祭り」

ア 盛りの時期を過ぎてから勢いが増すこと。

イ 以前のことを振り返って盛り上がること。

ウ 時期をはずして手おくれになること。

エ いつまでもにぎやかで騒^{さわ}がしいこと。

問二 ――線部①「強情な子ね、と溜息をついて」とありますが、
このときの先生の心情の説明として最も適当なものを次の中から
選び、記号で答えなさい。

ア 欲しいものばかりに気を取られ、親孝行に対しては消極的な
慈雨の様子に失望している。

イ 自分の言うことに従おうとせず、黙^{だま}ったまま何も答えないう
でいる慈雨の態度にあきれている。

ウ 慈雨にも何かの事情があったのではないかと思い、強く責め
てしまったことを後悔^{うがひ}している。

エ 自分の言うことを聞こうとしない慈雨の姿にとまどいを感じ、
どうしたらよいのか迷っている。

問三 ――線部②「くだんねえ」とありますが、山下くんはなぜこ
のようなことを言ったのですか。その理由として最も適当なもの
を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分には母親がいなかったことを知っているにもかかわらず、担
任の先生が学級の皆に母親への孝行を勧めたから。

イ 慈雨だけが担任の先生にしかられていることに同情し、少し
でも慈雨のことをかばいたいと考えたから。

ウ 親孝行するために、その親からもらったおこづかいを使う生
徒たちの行動に対して、根本的な疑問を感じたから。

エ 先生の提案や学級の皆がしていることは、真に親を思っている
行動ではなく、ほかの人の目を気にしたものだと思ったから。

問四 ――線部③「泣かないの」とありますが、母がこのような言
葉を慈雨にかけたのはなぜですか。その理由として最も適当なも
のを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 家事のために自分の手が荒れていることなど、慈雨が大げさ
に泣くほどのことではないと思ったから。

イ 親孝行することについて、慈雨があれこれと深く考え過ぎて
いると思ったから。

ウ ハンドクリームがすり込まれる自分の荒れた手を見て、慈雨
が心配して泣いていると思ったから。

エ ハンドクリームをもらっても感激した態度を示さなかった自
分に、慈雨ががっかりしていると思ったから。

問五 ――線部④「心を残さないよう、あちらの世界に行っていた
だくために、私たちの仕事がある」とありますが、このような慈
雨の考えが最もよく表れている一文を文中からぬき出し、初めの
五字を答えなさい。

問六

——線部⑤「先生、私、やっぱり、リボンいりません！でも、こっそり『桃の花』は買いますよ」とありますが、この言葉から読み取れる慈雨の考えとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 思いやりとは、後からそつと示せばいいものであって、その場ですぐに示さなくてもかまわない。
- イ 思いやりとは、ただ自分の気持ちを示すものであって、相手に感謝を期待するようなものではない。
- ウ 思いやりとは、自分から進んで示すものであって、ほかの人から指示されて示すようなものではない。
- エ 思いやりとは、相手にだけそつと示すものであって、ほかの人に誇らしげに見せるようなものではない。

問七

——線部⑥「無意識の内の見せびらかし」とありますが、これは慈雨のどのような様子を表していますか。この説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 栄の存在が心の支えとなっていて、それが外見やふだんの仕事ぶりにも自然とあらわれていること。
- イ 栄への愛情が日ごろの態度にあふれ出ている、それが周囲の人々からは得意げに見えてしまうこと。
- ウ 栄の魅力みりょくを春美にも知ってほしいという気持ちがあって、それが言動のいたる所にあらわれていること。
- エ 栄とともに生活する喜びを心の中で感じつつも、それをほかの人には悟さとられないようにふるまっていること。

問八

本文の表現と内容の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人それぞれの境遇きようぐうによって、考え方に違いが生まれてくる過程を、現在の慈雨と春美との会話、小学生の時の慈雨や山下くと先生との会話を対比することえがで客観的に描えがいている。
- イ 「そうだろう、山下くん」や「春美よ、何も言わずに見守っておいてくれ」など、慈雨が周囲の人々に積極的にはたらかけることによって、精神的に成長していく姿を描いている。
- ウ 現在の場面の中に小学生の時の思い出を織り交ぜながら、慈雨が相手への思いやりのあり方について考えを深め、しっかりと生きていくようになる姿を描いている。
- エ 慈雨が心の中でつぶやく言葉のところに、「くそう」や「ざまあみろ」など乱暴な話し言葉をはさみ込むことによって、率直そつちよくだが短気なところもある慈雨の性質を描いている。

見えない人が「見て」いる空間と、見える人が目でとらえている空間。それがどのように違うのかは、一緒に時間を過ごす中で、ふとした瞬間に明らかになるものです。

たとえば、先ほども登場していただいた木下路徳さんと一緒に歩いているとき。その日、私と木下さんは私の勤務先である東京工業大学大岡山キャンパスの私の研究室でインタビューを行うことになっていました。

私と木下さんはまず大岡山駅の改札で待ち合わせて、交差点をわたってすぐの大学正門を抜け、私の研究室がある西9号館に向かって歩きはじめました。その途中、一五メートルほどの緩やかな坂道を下っていたときです。木下さんが言いました。「大岡山はやっぱり山で、いまその斜面をおりているんですね」。

私はそれを聞いて、かなりびつくりしてしまいました。なぜなら木下さんが、そこを「山の斜面」だと言ったからです。毎日のようにそこを行き来していましたが、私にとってはそれはただの「坂道」でしかありませんでした。

つまり私にとってそれは、大岡山駅という「出発点」と、西9号館という「目的地」をつなぐ道順の一部でしかなく、曲がってしまえばもう忘れてしまうような、空間的にも意味的にも他の空間や道から分節化された「部分」でしかなかった。それに対して木下さんが口にし

たのは、もつと俯瞰的で空間全体をとらえるイメージでした。

確かに言われてみれば、木下さんの言う通り、大岡山の南半分は駅の改札を「頂上」とするお椀をふせたような地形をしており、西9号館はその「ふもと」に位置しています。その頂上からふもとに向かう斜面を、私たちは下っていました。

けれども、見える人にとって、そのような俯瞰的で三次元的なイメージを持つことはきわめて難しいことです。坂道の両側には、サークル勧誘の立て看板が立ち並んでいます。学校だから、知った顔とすれ違うかもしれません。前方には混雑した学食の入り口が見えます。目に飛び込んでくるさまざまな情報が、見える人の意識を奪っていくのです。あるいはそれらをすべてシャットアウトしてスマホの画面に視線を落とすか。そこを通る通行人には、自分がどんな地形のどのあたりを歩いているかなんて、想像する余裕はありません。

そう、私たちはまさに「通行人」なのだとそのとき思いました。「通るべき場所」として定められ、方向性を持つ「道」に、いわばベルトコンベアのように運ばれている存在。それに比べて、(A) スキーヤーのように広い平面の上に自分で線を引く木下さんのイメージは、より開放的なものに思えます。

物理的には同じ場所に立っていたのだとしても、その場所に与える意味次第では全く異なる経験をしていることになる。それが、木下さ

んの一言が私に与えた驚きでした。人は、物理的な空間を歩きながら、実は脳内に作り上げたイメージの中を歩いている。私と木下さんは、同じ坂を並んで下りながら、実は全く違う世界を歩いていたわけです。

③ 彼らは「道」から自由だと言えるのかもしれませんが、道は、人が進むべき方向を示します。もちろん視覚障害者だって、個人差はあるとしても、音の反響や白杖の感触を利用して道の幅や向きを把握しています。しかし、目が道のずつと先まで一瞬にして見通すことができます。しかし、音や感触で把握できる範囲は限定されている。道から自由であるとは、予測が立ちにくいという意味では特殊な慎重さを要しますが、だからこそ、道だけを特別視しない俯瞰的なビジョンを持つことができたのでしょうか。

④ 全員の木下さんがそのとき手にしていた「情報」は、私に比べればきわめて少ないものでした。少ないどころか、たぶん二つの情報しかなかったはずです。つまり「大岡山」という地名」と「足で感じる傾きの二つです。しかし情報が少ないからこそ、それを解釈することによって、見える人では持ち得ないような空間が、頭の中に作り出されました。

木下さんはそのことについてこう語っています。「たぶん脳の中にはスペースがありますよね。見える人だと、そこがスーパースペースや通る人だとかで埋まっているんだけど、ぼくらの場合はそこが空いていて、見える人のように使っていない。でもそのスペースを何とか使おうとして、情報と情報を結びつけていくので、そういったイメージができてくるんでしょうね。さつきなら、足で感じる『斜面を下っている』という情報しかないで、これはどういうことだ? と考えてい

たのは、もつと俯瞰的で空間全体をとらえるイメージでした。

確かに言われてみれば、木下さんの言う通り、大岡山の南半分は駅の改札を「頂上」とするお椀をふせたような地形をしており、西9号館はその「ふもと」に位置しています。その頂上からふもとに向かう斜面を、私たちは下っていました。

けれども、見える人にとって、そのような俯瞰的で三次元的なイメージを持つことはきわめて難しいことです。坂道の両側には、サークル勧誘の立て看板が立ち並んでいます。学校だから、知った顔とすれ違うかもしれません。前方には混雑した学食の入り口が見えます。目に飛び込んでくるさまざまな情報が、見える人の意識を奪っていくのです。あるいはそれらをすべてシャットアウトしてスマホの画面に視線を落とすか。そこを通る通行人には、自分がどんな地形のどのあたりを歩いているかなんて、想像する余裕はありません。

そう、私たちはまさに「通行人」なのだとそのとき思いました。「通るべき場所」として定められ、方向性を持つ「道」に、いわばベルトコンベアのように運ばれている存在。それに比べて、(A) スキーヤーのように広い平面の上に自分で線を引く木下さんのイメージは、より開放的なものに思えます。

物理的には同じ場所に立っていたのだとしても、その場所に与える意味次第では全く異なる経験をしていることになる。それが、木下さ

くわけです。だから、見えない人はある意味で余裕があるのかもしれないね。見える人、坂だ、ということまで気が奪われちゃうんでしょうね。きつと、まわりの風景、空が青いだとか、スカイツリーが見えるとか、そういうので忙しいわけだよね」。

④ まさに情報の少なさが特有の意味を生み出している実例です。都市で生活していると、目にとらえる情報の多くは、人工的なものです。大型スクリーンに映し出されるアイドルの顔、新商品を宣伝する看板、電車の中吊り広告……。見られるために設えられたもの、本当は自分にはあまり関係のない「意味」を持たないかもしれない、純粋な「情報」もたくさんあふれています。視覚的な注意をさらっていくめまぐるしい情報の洪水。確かに見える人の頭の中には、木下さんの言う「脳の中のスペース」がほとんどありません。

それに比べて見えない人は、こうした洪水とは無縁です。(B) 音や匂いも都市には氾濫していますが、それでも木下さんに言わせれば「脳の中に余裕がある」。さきほど、見えない人は道から自由なのではないか、と述べました。この「道」は、物理的な道、つまりコンクリートや土を固めて作られた文字通りの道であると同時に、比喩的な道でもあります。つまり、「こつちにおいて」と人の進むべき方向を示すもの、という意味です。

人は自分の行動を一〇〇パーセント自発的に、自分の意志で行っているわけではありません。知らず知らずのうちにまわりの環境に影響されながら行動していることが案外多いものです。

「寄りかかって休む」という行為ひとつとっても、たいていは寄りかかろうと思つて壁を探すのではなくて、そこに壁があるから寄つるか

ってしまう。子どもの場合は特にその割合が高くなります。「いたずら」とはたいていそうしたものです。ボタンがあるから押したくなるし、台があるからよじ登ってしまう。環境に埋め込まれたさまざまなスイッチがトリガーになって、子どもたちの行動が誘発されていきます。

⑤ いわば、人は多かれ少なかれ環境に振り付けられながら行動している、と言えるのではないだろうか。

あるトリガーから別のトリガーへとめまぐるしく注意を奪われながら、人は環境の中を動かされていきます。人の進むべき方向を示す「道」とは、「こつちに来なさい、こつちに来てこうしなさい」と、行為を次々と導いていく環境の中に引かれた導線です。

(中 略)

都市においては無数の道が縦横無尽に引かれています。しかもその多くは、人の欲望に強く訴えてくる。真夏のかんかん照りの道にコーラの看板があれば飲みたくなってしまいうし、「本日三割引き」ののぼりを見ればついスーパーに入って余計な買い物をしてしまう。その欲望がもともと私の中にあったかどうかは問題ではありません。視覚的な刺激によって人の中に欲望がつけられていき、気がつけば「そのような欲望を抱えた人」になっています。

資本主義システムが過剰な視覚刺激を原動力にして回っていることは言うまでもないでしょう。それを否定するのは簡単ではないしするつもりはありませんが、都市において、私たちがこの振り付け装置に踊らされがちなのは事実です。最近ではむしろ、パソコンのデスクトップやスマートフォン画面上に、こうしたトリガーは増殖しているかもしれません。仕事をするつもりでパソコンを開いたら買い物をしてしま

ていた……よくあることです。私たちは日々、軽い記憶喪失に見舞われています。いったい、私が情報を使っているのか、情報が私を使っているのか分かりません。

(中 略)

さて大岡「山」の経験が示唆していたのは、見えない人が見える人よりも空間を大きく俯瞰的にとらえている場合がある、ということでした。普通に考えると、見える人の方が「見通す」ことができるので、遠くまで空間をとらえていそうです。

しかし、そのことによってかえって「道」にしばられてしまう。だからかえって見えない人の方が、目が見通すことのできる範囲を越えて、大きく空間をとらえることができる。視野を持たないゆえに裏切る面白い経験です。

X

俯瞰的な大岡「山」のイメージは、「足元の傾斜」と「地名」という限られた情報を結びつけることによって得られたものです。つまり「推論」によって得られたもの。視覚的に見られたものではありません。

推論によって得られた大岡「山」には、駅前のスーパーも、マクドナルドも、病院もありません。お椀状の土地に、駅、信号、建物などいくつかのランドマークが配置されているだけ。それは幾何学的で抽象的な、図式化された空間です。視覚が個々の物の、とりわけ表面をなぞるのだとすれば、推論によって得られるのは、(C) 物の配置や物と物の関係です。見えない人は、情報量が減る代わりに配置や関係に特化したイメージで空間をとらえているのです。

(伊藤亜紗『目が見えない人は世界をどう見ているか』光文社より)

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

※1 木下路徳さん……生まれつき視力が弱く、十六歳の時に失明している。

※2 俯瞰……高いところから広い範囲を見下ろすこと。

※3 白杖……目の見えない人が使用する白い杖。

※4 トリガー……物事を引き起こすきっかけ。引き金。

問一 (A) (C) に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア あるいは イ むしろ
ウ まるで エ もちろん

問二 線部①「見える人にとって、そのような俯瞰的で三次元的なイメージを持つことはきわめて難しいことです」とありますが、これはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 毎日のように同じ道を行き来することによって、そこから見える風景がどこにでもある見慣れたものになってしまいうから。
イ 風景や通行人の姿などの目に見えるものに意識を奪われて、自分がある場所の形状や位置について考える余裕はないから。
ウ 平面的な地図を思い描いて、出発点から目的地までをつなぐ道順ばかりに気を取られてしまいうから。
エ 学校や駅などの目印となるような建物にだけ注目して、それぞれの位置関係をとらえることができないから。

問三 線部②「私たちはまさに『通行人』なのだ」とききました」とありますが、ここでの「通行人」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一つの場所にとどまらず、ある地点からほかの地点へと移動し続けるだけの存在。
イ 道の上を通り過ぎるだけで、道のまわりの人や物とは関係を持たない存在。
ウ 道が指し示す方向に従って、決められたとおりに移動するだけの存在。
エ 荷物のように運ばれていくだけで、道を利用して何かを運ぶことはない存在。

問四 ——— 線部③「彼らは『道』から自由だと言えるのかもしれない」とありますが、これはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 目が見えないことによって視覚的注意をさらっていく情報にしばられることがないため、かえって空間全体をイメージすることができるから。
- イ 目が見えない代わりに音の反響や白杖の感触を利用していくことで、目の見える人には持ちえない特別な注意力を備えることができるから。
- ウ 目が見えない代わりにさまざまな人々の手助けによって、目の見える人と同じように不自由なく道を歩いて行くことができるから。
- エ 目が見えないことによって実際に目に飛び込んでくるさまざまな情報にしばられることなく、自分の思いどおりに世界を想像することができるから。

問五 ——— 線部④「まさに情報の少なさが特有の意味を生み出している実例です」とありますが、少ない情報から木下さんが生み出した「特有の意味」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大岡山が「山」であるという情報から得られた、大岡山にも「頂上」や「ふもと」などの山としての地形が当然あるだろうという立体的で図式化された理解。
- イ 耳から入ってくる音や杖の感触によって得られた、目の見える人よりも目の見えない人の方がかえって大岡山の地形を正確に感じ取ることができるという利点。
- ウ 大岡山には「東京工業大学」という名前の大学があるという事実から推理された、自分の周囲にはビルが建ち並ぶ風景が広がっているはずだという想像。
- エ 大岡山という地名に含まれる「山」という言葉と足下の傾きを結びつけることによって得られた、現在の自分は山の斜面を降りているというイメージ。

問六 ——— 線部⑤「人は多かれ少なかれ環境に振り付けられながら行動している」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間は自分の好みや欲望に従って行動しているのではなく、周囲からどのように見られているかを気にすることによって行動が選択せんたくされているということ。
- イ 人間は自分の意志で行動しているように考えているが、実際には周りにあるさまざまなものからの刺激を受けることでその行動が引き起こされているということ。
- ウ 人間の行動はそれぞれが独自に存在しているのではなく、ある行動が次の行動を引き起こし、その行動がさらに次の行動を引き起こしているということ。
- エ 人間は何らかの目的を持って行動するものだが、現代社会では刻々と変わる周辺環境に心を奪われてしまつて本来の目的を見失っているということ。

問七 ——— 線部⑥「軽い記憶喪失に見舞われています」とありますが、これはどういうことですか。四十字以内で説明しなさい。

問八 X に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 視野が狭せまくならない
- イ すべてを見通す視野を持つ
- ウ 多くのものを見失う
- エ 細部にまで目が行き届く

問九 本文の内容と合っているものを次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 都市空間に情報があふれていたとしても、目の見えない人にとってはあらゆる情報が無意味なものとなっている。
- イ 目の見える人と目の見えない人とは、同じ場所に対して全く異なる意味を与えることがある。
- ウ 現代の資本主義システムの繁栄はんえいには、目の見える人々に対する視覚的な刺激が大きく関かかわっている。
- エ 目の見えない人は、いくつかのランドマークが配置されているだけの地形の表面をなぞるような空間イメージを持っている。
- オ 目が見える人も目が見えない人も、脳の中にはどちらも同じだけのスペースと余裕を持っている。

(問題は以上です。)

国語 解答用紙

[一]

①	経由
---	----

②	無造作
---	-----

③	発芽
---	----

④	注ぐ
---	----

⑤	快い
---	----

[二]

⑥	コウセキ
---	------

⑦	キントウ
---	------

⑧	タイボウ
---	------

⑨	ア びる
---	---------

⑩	カマ える
---	----------

[三]

問一	1
----	---

問二	2
----	---

問三	3
----	---

問四	4
----	---

問五	5
----	---

[四]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[五]

問一	1
----	---

問二	2
----	---

問三	3
----	---

[六]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[七]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[八]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[九]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一〇]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一一]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一二]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一三]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一四]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一五]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一六]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一七]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一八]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[一九]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

[二〇]

問一	A
----	---

問二	B
----	---

問三	C
----	---

合計

受験番号